グリーン四国

四国森林管理局

四国山の日

高知市丸ノ内１丁目３－30
ＴＥＬ 088－821－2052
ＦＡＸ 088－821－4834
ホームページアドレスhttp://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/
電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp

No.1138　2015年１月号

迎　春

二の鎖小屋付近から見た瓶ヶ森（奥）

新年のあいさつ

四国森林管理局長　浅　川　京　子

明けましておめでとうございます。

我が国の森林は、人工林を中心に本格的な利用期を迎えており、国内の豊富な森林資源を循環利用することが重要な課題になっています。このための方策として、昨年の「日本再興戦略」においては、国産材ＣＬＴ（直交集成板）普及のスピードアップ、木質バイオマスエネルギーの利用、国産材の安定的かつ効率的な供給体制の構築などを進め、林業の成長産業化を進めることとされました。

四国は全国有数の森林地域で、人工林の割合が多く、森林資源が着実に増加してきており、伐採期を迎えた森林も増えてきています。地球温暖化対策として森林の若返りを図るためにも木の伐採とその後の森林づくりを進めていく必要があります。また、若年人口の減少が問題になっている地域の多くが中山間地域に位置しているため、これらの地域に豊富に存する森林資源を活用し、地域の主要産業である林業の振興を通じて地域経済の活性化と人口の定着を進めていくことが必要です。

このような中、四国では、大型製材工場や木質バイオマス発電所の操業開始、産学官によるＣＬＴの開発普及など、豊かな森林資源の利用や林業の振興につながる動きが活発になってきました。各県でもこれらの動きを後押しすべく、国産材の生産体制を整備し、供給を増やそうとしています。

国有林は四国の森林面積の一割強を占めています。国有林野事業は、自ら森林を管理・整備し木材を生産する「林業事業体」であると同時に、国の政策を推進する機関でもあります。このような国有林野事業の位置付けを踏まえて、本年の業務運営に取り組んでまいります。

具体的には、低コストで効率の良い施業方式を率先して採り入れ安定的な木材生産・供給を進めるほか、国産材需要の拡大や木材流通の合理化などを進める先進的な取組に対して優先的に木材を販売することを通じて、四国の林業の飛躍のために力を尽くします。また、林業経営改善に資するような先進的な技術の開発普及や森林・林業経営を担う人材育成に取り組みます。さらに、問題になっているシカなどの鳥獣害対策に関係者とともに取り組むとともに、昨年の台風などにより被災した山地の早期復旧や災害リスクの多い四国の特性を踏まえ被害の未然防止に努めます。

本年においても、国有林野事業の運営を通じて、地域の振興に貢献して参りたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

「国有林モニター勉強会」を開催

〈企画調整課〉

一一月二七日に、平成二六年度第二回国有林モニター勉強会を開催しました。当日は、好天にも恵まれ、四国4県から国有林モニター一五名が参加されました。

最初の視察地、高知県須崎市の朴ノ川山国有林においては、間伐事業実施箇所で、実際に架線で材が搬出される様子や高性能林業機械（プロセッサ）の造材等を見学しました。モニターの皆さんは、説明を大変熱心に聞き入っておられ、活発に質問や意見を述べられるなど、森林整備について理解を深められていました。

午後は、四国森林管理局森林環境教育について、その取組紹介を行い、実際にブローチを作成する等、森林教室を体験していただきました。

今回の勉強会について、参加したモニターの方々から、「林業の機械化が思っていた以上に進んでいて驚いた。」「説明だけでなく体感できたので頭に入りやすかった。」等の感想をいただき、大変有意義な勉強会となりました。

間伐事業ヶ所の見学の様子

森林教室体験の様子

民官協働の大規模なシカ捕獲を三嶺山系で実施

〈技術普及課〉

ニホンジカ（以下「シカ」）による被害が深刻化する三嶺山系では、平成一九年度から、関係機関・団体や地域住民等が連携して、防護対策やシカ捕獲に懸命に取り組んでいます。

しかしながら、通常の方法では捕獲できないアクセスの悪いエリアが、シカの逃げ込み場・繁殖地等となり被害対策の障害となっていることから、このエリアでの捕獲を目的として、平成二五年一〇月に、森林管理局、高知県、香美市、香美猟友会、登山団体等一〇機関・団体が「三嶺シカ捕獲実行委員会」をつくり、自衛隊にも協力頂けることとなりました。

実行委員会で決定した捕獲方法の概要は、捕獲区域を、西熊山附近の稜線からフスベヨリ谷までの間に約一五〇ha設定し、登山団体

が勢子（捕獲支援班）となって、稜線から猟友会（捕獲班）が待つ谷までシカを追い込むこととし、自衛隊が、現場と本部間の通信連絡と、ヘリによるシカの動向の偵察でサポートするという作戦です。

本作戦は、猟銃の使用はもとより、勢子が道なき急傾斜地を下降すること、多くの機関及び人数が参加すること等から、特に安全の確保に万全を期すため、予行演習（発砲以外全て実施）や検証及び対応策について協議を重ねる等長期に渡って準備を進め、一一月一六日に捕獲本番を実施しました。

捕獲支援班等入山前打合せ（三嶺林道終点）

捕獲班（猟友会待機中）

本番当日の参加者は、局署（高知中部、徳島）職員一一名を含む約二〇〇名となり、早朝四時からバス等で森林管理局等より各配置箇所へ出発し、六時には、三嶺山系の展望所に、前日から自衛隊が設営してくれた天幕に現場本部を立ち上げました。

現場本部は、捕獲支援班、捕獲班、入山者の安全を確保する監視班等と連絡を取り各班の状況を把握しつつ、捕獲支援班の追い込みスタート地点への配置が完了した一一時に捕獲開始を指示し、シカの追い込みと捕獲が始まりました。

捕獲は、捕獲支援班が追い込みの最終ラインに到達した一三時頃まで実施し、シカの目撃頭数は二〇頭以上ありましたが、捕獲成果は、一一時三〇分までに捕獲した四頭となりました。これは、安全確保のため追い込み最終ラインは捕獲班から標高一〇〇m程度上に設定していること、捕獲区域内に捕獲支援班が追い込みできない三つの大きな谷があること等から、捕獲班が発砲できる場所まで下降したシカが少なかったこと等が考えられます。

本作戦は、全員が無事登山口へ下山した一五時三〇分をもって終了し、参加者は、香美市林業婦人部の炊き出し支援でふるまわれたおいしい猪汁を頂いたあと帰路につきました。

今回の捕獲頭数は四頭に終わりましたが、参加者からは、三嶺の森を守るために、多数の民官の機関・団体が一体となって取り組み、無事作業を終えたことに高い評価を頂いたところであり、引き続き、より安全で成果をあげる取組とするために、今回の事業の検証及び改善策等について、関係機関・団体と協議・検討を進めることにしています。

捕獲支援班等移動中（三嶺林道終点から入山）

四国を形状した魚梁瀬スギ根盤を寄贈

〈技術普及課〉

昨年末、高田弘之さん（昭和六三年　安芸営林署長を最後に退職・仰山会会員）から、四国の形状を醸し出している魚梁瀬スギの根盤を寄贈して頂きました。

当時、根株は不整形で辺材部は腐朽が進んでおり、朝に夕に根盤を磨き上げた話も伺いました。

現在、高田さんは、愛媛県宇和島市に住居を構えられています。この度の魚梁瀬スギ根盤の寄贈について、高田さんには局長から感謝状を贈呈させて頂きました。

根盤の前で感謝状を手にされた高田さん

なお、寄贈された魚梁瀬スギ根盤は、皆様にご覧頂けるよう局長室に展示しています。来局された際にはご鑑賞ください。

技術開発課題に貴重な意見

「平成二六年度第二回技術開発委員会」を開催

〈森林技術・支援センター〉

一二月一二日、四国森林管理局二階会議室にて、今年度第二回目の技術開発委員会を開催しました。

当委員会は、四国森林管理局技術開発委員会運営要綱に基づき、技術開発の計画・評価・方法等について意見を聴くもので、森林生態学、林木育種、遺伝資源、森林管理経営等の専門家の委員で構成されています。

今回は、平成二六年度中に実施した課題の内、完了報告一課題（囲いわなによる効率的なシカ捕獲試験）、中間報告一課題（下刈省力化によるシカ食害低減効果の検証）、平成二七年度新規課題二課題（①モウソウチク林整備の一考察につい

平成二六年度第二回技術開発委員会

シカ食害低減効果検証調査区

モウソウチク林整備試験地

て、②竹を利用したシカ食害対策について）の計四課題について審議を願い意見を伺いました。

委員からは、

完了報告課題「囲いわなによる効率的なシカ捕獲試験」では、捕獲率向上に向けた誘引方法の更なる工夫とデータ収集・分析、小型囲いわなの更なる普及に期待している。

中間報告課題「下刈省力化によるシカ食害低減効果の検証」では、下層植生やシカ生息状況の異なる地域毎のデータと調査期間の長期化が必要である。

新規課題「竹を利用したシカ食害対策について」では、竹を単に立てるだけでなく、どのような状態に立てれば効果的か、多くの方法を考え試す必要がある。

等各課題に対し様々な意見が出されました。

今回頂きましたこれらの貴重な意見等を踏まえて、今後の試験設定のあり方など技術開発に活かして行くこととしています。

神田小学校で『一日先生』

〈技術普及課〉

一二月六日、高知市立神田小学校において森林・木工教室を行いました。

このイベントは、各学年の保護者が主催し、「一日先生」として、色々な職種の方々を講師として招くもので、去年に引き続き、一年生の保護者から要請を受けたものです。

当日は、児童一一三名、その保護者一〇〇名、先生四名と昨年に増して大人数ということもあり、森林の役割や大切さについて「〇×クイズ」形式にした森林教室を行いました。一年生には、少し難しい問題もありましたが、一人で一生懸命考える子、親子で悩む子、難なくすらすらと答える子、と様々で、一門ずつ答え合わせをする度に、「やったー。正解やー。」と歓声が上がり、大変な盛り上がりでした。全問正解者が半数以上となり、補足説明も親子で熱心に聞いてくれていました。

森林教室の様子

木工教室は、糸電話を応用した「ジージーゼミ」作りをしました。今回は大人数であったため、残念ながらほとんど完成したものを配布し、木工用ボンドで貼り付けるだけとなってしまいましたが、子ども達は早くセミをならしたかったのか、あっという間に完成させて、すぐにホールはセミの大合唱となりました。

鳴らし終わった子ども達からは、「なんで音が鳴るが？」と不思議そうだったので、このセミがどうして鳴くのか、少し、音の伝わりについても、学習しました。

最後は、OB正岡さんの手作りの木のおもちゃ（パズルやゲーム、けん玉など）

で皆が思い思いに遊んで終了しました。こちらも、木製で、しかも手作りということで、父兄からも大変好評でした。

親子で森林について考えたり、木と触れあう子ども達の笑顔から、短い時間でしたが、木の良さが伝わったのではないかと思う「一日先生」となりました。

ジージーゼミで遊んでいます

各地のたより

一面銀世界での堂ヶ森登山

〈ふれあい推進センター〉

一二月二日、高知県黒潮町立三浦小学校の四～五年生の児童一六名が堂ヶ森に登山しました。

例年、この時期には、小学生を対象にした登山は行っていませんが、当校は今年度から「山の学習」を行っていることもあり、「是非、今年中に登山をしたい」との依頼を受けて、この時期の実施となりました。

今回の登山は、冬季という雪が降ることも、想定し行うこととしました。

案の定、当日は、この冬一番の寒波到来により、一面が銀世界の中での登山となりました。

雪が木の葉に積もっていることから、登山道沿いの樹木の名前などの説明は殆ど出来ませんでしたが、児童達は登山道沿いの雪景色を楽しみながら約一時間かけて堂ヶ森の頂上を目指しました。

堂ヶ森で記念撮影

途中の「四万十のヒノキ仙人」で休憩しながら、樹齢約二五〇年の天然ヒノキの説明をしましたが、実際に見た児童はその大きさに驚いていました。

堂ヶ森山頂のお堂では、「堂ヶ森」の名前の由来や「森林の大切な働き」について説明し、お堂周辺は多いところで五㎝程も積雪があったので、雪だるま等を作ったりして、楽しく遊びました。

その後下山し、バスの中での昼食。予定していたゲームは取り止めて、各児童からの「堂ヶ森」や「森林に関する」こと等についての質問に答えることにしました。

暖かい地域で住んでいる児童達は、学校周辺で雪が積もることなどほとんどないので、銀世界の中での貴重な登山を体験することにより、自然の良さや大切さを十分感じてもらえたと考えています。

檜仙人の説明

クリスマス木工クラフト教室

〈ふれあい推進センター〉

一二月一〇日、高知県宿毛市立小筑紫小学校で五年生二一名を対象に本年度五回目の木工クラフト教室『「クリスマスドアノブ飾り」（以下ドアノブ飾り）』作りを行いました。

クリスマスドアノブ飾り（見本）

電動糸鋸ノコ、うまく切れるかな

始めに、「木材の特徴」と題して、木の長所は軽くて丈夫なこと、加工しやすいこと、湿度や温度を調整すること、短所としては、性質がすべて同じでないこと、シロアリ等の被害を受けやすいこと等について学習し、木の重さの比較実験も行いました。

その後、職員が電動糸鋸の安全な使い方や注意点を説明し後、作製に取り掛かりました。児童達は、四班に分かれて「ドアノブ飾り」作りを行い、当センターの職員や先生の手助けを得て、板の円形部分を切断しました。また、紙やすりや色とりどりのポスターカラー等を使用し、休憩時間も忘れる程、夢中になって約二時間半の作品作製に取り組みました。児童達は、完成した作品を見せ合ったりして、とても満足そうな表情でした。

電動糸鋸ノコは、このように使うんだよ

後日、小学校から送られきた児童の感想文には、「リグナムバイタ（世界一重たい木）は、とても重たくてびっくりしました。」「ドアノブ飾り作りは、最初は難しかったけど、楽しく作れて、以外に綺麗にできました。」「ドアノブ飾り作りの準備、大変だったと思うけど、ありがとうございました。自宅に飾ります。」等の感想があり、森林や木材へ少しでも関心を持っても

らい、また、理解の一助になれたと職員一同喜んでいます。

森林教室及びマツボックリツリー

～保育所等三ヶ所で実施～

《徳島森林管理署》

一一月二日、徳島県石井町立藍畑幼稚園において園児五三名、一一月二七日、小松島市立和田島保育所において園児三〇名、一二月八日、石井町立高原幼稚園において園児五一名を対象とした森林教室及びクリスマスツリー製作を行いました。

マツボックリツリー

なお、藍畑・高原の両幼稚園については、当署が一〇月の「山と木と緑のフェア二〇一四」にブースを出展した際、両園の先生方と材料提供等の情報交換をしていく中で森林教室の依頼を受け実施となりました。

最初に、当署が、どのような仕事しているのか説明しました。

次に、森の大切さを知ってもらうため、「紙芝居」を行いました。紙芝居は、「暗くて食べ物も無い森を動物たちが立ち上がり、人間と協力してもとの明るく素晴らしい森に戻す」といった話です。森は、手入れをしないと災害が多くなったり、木の実や柔らかい葉をつける植物が育たないこと等を伝えました。

紙芝居の様子【高原幼稚園】

また、大王松のマツボックリやモミの球果、マツの種子やモミの葉等、普段、あまり目にしない自然のものを手にとって、触ったり、臭いを嗅いだりしてもらいました。その後、動物にまつわるクイズを行い、県内にはたくさんの動物がいることを説明して、森の大切さの学習を終わりました。

続いて、お待ちかねのマツボックリを使ったツリー作りです。

まず、園児達に、ツリーになる部分の大きなマツボックリ「スラッシュマツ」を選んでもらい、木の実で飾り付けをします。

始めに、マツボックリに色を塗り、ドングリやノグルミ、ツバキやチャノミ等にも色を塗り、いろんな種類の木の実を飾り付けて個性的な作品が出来上がっていきました。最後にマツボックリツリーに木の幹を付け、丸太切りで作った輪切りの土台に取り付けて完成です。

今回、学習したことを覚えてもらうことと、作ったツリーをいつまでも大切に

紙芝居の様子【和田島保育所】

飾ってもらう約束をして森林教室を終わりました。

最後に、今回実施した三ヶ所の保育所等には、モミの葉で作ったリースをプレゼントしました。今後とも材料提供や講師の派遣等、地域の関係各機関等の要請に応えつつ、森林環境教育を行っていきたいと考えています。

マツボックリツリーできたよ

【藍畑幼稚園】

【藍畑幼稚園】

クリスマスリース作りに今年も挑戦！
～三つの児童館で～
《徳島森林管理署》

一一月一五日、徳島市立芝原児童館において一年生から六年生の児童二〇名、一二月七日、徳島市立佐古児童館において児童五〇名及び保護者、一二月二〇日、徳島市立西富田・新町児童館において児童二〇名及び保護者を対象に森林教室及びクリスマスリース作りを行いました。

まず、森林教室では、パネルを用いて徳島県の森林について説明を行いました。世界的に見ても日本には豊かな森林がたくさんあり、国内で比較しても徳島県の森林率は日本の上位に位置することを説明しました。

その後、ニホンジカの増え過ぎによる樹皮剥離や下層植生の被害について、山から採ってきた丸太を見ながらクイズに答えてもらいました。また、リース作りに使うマツの種子の飛び方を見てもらい、くるくる回転することで風に乗りやすくなり、遠くまで種を飛ばすことが出来ることや、モミの香りにリラック

クリスマスリース上手にできたよ【芝原児童館】

パネルを使って森林学習【佐古児童館】

ス効果があること等について話をし、普段、触れることのない自然について理解してもらい、森林が私たちの生活に密接に関わっていることを、見て聞いて触れて実感してもらうことができました。

その後、モミの葉を用いてのクリスマスリース作りに挑戦してもらいました。あらかじめ短くカットしたモミの葉を、丸く整え形作ったカズラに差し込んでいくものです。その工程が終了すると、ドングリや金や銀に着色したマツボックリ、赤い色がリースに映えるサルトリイバラの実などを飾り付けていきました。保護者の方にも参加してもらい、親子仲良く作品を作り上げました。最後には、皆満足した様子で作品を家庭に持って帰りました。

お母さんと仲良く製作中、楽しいな【西富田・新町児童館】

今回、三ヶ所の児童館には、マツボックリで作ったクリスマスツリーを贈り森林教室は終了しました。

今後も、この様な森林教室を継続的に実施していくことで、徳島県の子ども達に自然の大切さや環境への意識を持ってもらえるように努めていきます。

森林教室＆クリスマスリースづくり

《徳島森林管理署》

一二月二四日、徳島県小松島市立目佐児童館において児童一二名を対象とした森林教室及びクリスマスリース作りを行いました。

始めに、森林が私たちの生活に密接に関わっていることを学んでもらうため、紙芝居を行いました。森林にはたくさんの動物が住んでおり、山の木を伐ったり手入れすることは、動物たちにとっても私たち人間にとっても大切なことだということを学んでもらいました。その後、ニホンジカの食害により、樹皮剥離被害を受けたリョウブやネズミやリスに食べられたマツボックリを実際に触れてもらい、クイズを出しました。子ども達は初めて触れる自然物に、時には声を上げながら楽しく森林について学んでくれました。

その後、クリスマスリース作りに取り掛かりました。ベースとなるカズラに直接飾り付けを行うもので、早速、児童達は思い思いの木の実やマツボックリを手に作業を開始しました。低学年の児童には当署職員や児童館の先生がサポートし、針金やホットボ

上手にできたかな、クリスマスリース

ンドで飾り付けを行いました。たくさんの木の実をつける児童や、キャラクターを描いて作品の一部にする児童等、個性を発揮したとても楽しい作品に仕上がりました。児童達からはとても楽しかったとの言葉をもらい、森林教室は盛況のうちに終了しました。

最後に、目佐児童館には、マツボックリで作ったクリスマスツリーを贈り、児童館に飾ってもらうことにしました。今後も地域の要請に応えながら、森林環境教育を実施して行きたいと思います。

「2014ウッディフェスティバル&さぬ木の暮らしフェア」に参加

〈香川森林管理事務所〉

一二月六日、七日の両日、サンメッセ香川（高松市）において、「2014ウッディフェスティバル&さぬ木の暮らしフェア」が開催されました。

二七回目となる今年は、木材需要拡大のために、林業・木材関係者に加え、家具や建具を取り扱う事業者にも協力を呼びかけ「さぬ木の暮らしフェア」と合同開催となったもので、出展企業三三社による各種展示や即売会等が行われました。

クリスマスリースの手作り教室大盛況

当所は、毎年このイベントに参加しており、今年は「緑の募金に協力いただいた方を対象にしたクリスマスリースの手作り教室」と「パネル展示」を行いました。

クリスマスリースの手作り教室は一二月上旬の開催ということもあって両日ともに大人気となり、一時間待ちの行列ができるほどの大盛況の中、子供も大人も感性豊かな様々な形のリースを完成させ、一日間で九三組のリースが出来上がりました。

材料の収集や事前準備においては所職員の大変な苦労がありましたが、この大盛況ぶりには苦労が報われるイベントとなりました。

また、緑の募金は約一九、〇〇〇円が集まり、イベント終了間際に、眞鍋所長より「（公益財団法人）かがわ水と緑の財団」の長田緑化推進事業課長に募金の贈呈を行いイベントを終了しました。

今後もこのようなイベントを通じて、森林や国産材の利用について少しでも関心を持っていただける方が増えることを願っています。

眞鍋所長（左側）より、かがわ水と緑の財団」の長田緑化推進事業課長に募金の贈呈